

Joshua Breakstone



モダン・ジャズ・ギターの旗手 ジョシュア・ブレイクストーン

村上智一氏が“ポップ・フィーリングを正当に継承し、シンプルで良く歌う”と評するギタリスト、ジョシュア・ブレイクストーン（1955年ニュージャージー州生まれ）。彼はまた、大の観音家でもあり、関西・四国を中心に東日ライブも数多く行なっている。さらに加がって来たジョシュアに話を聞いた。

セル・サルヴァドールとジミヘン

— 今もシンシナティ（オハイオ州）にお住まいですか？

ジョシュア・ブレイクストーン シンシ

ナティには4年半いたけど、1997年以降ニューヨークに住んでいる。国連ビルのすぐそばだよ。エンパイア・ステートビル、クワイアラー・ビルもよく見える。最近ヨーロッパで演奏することが多いから南フランスにスモール・ハウスを持っている。特に夏はそこで過ごすことが多い。

— セル・サルヴァドールに師事されたのですが、なぜ後にジャズ・ギターを習おうと思ったんですか？

ジョシュア セルはグレイト・ティンカーだった。最初に買ったのは1970年

頃だったかな。僕の妹の友人に、リック・キントロンザというバリン・ウッド・ストラスボウがいる。確か当時パティ・リッチのビッグバンドにいたはずだ。フランク・シナトラのバックバンドも吹いていたね。彼が僕に「ニューヨークのステーション・アイランド周辺に居るギター個人教師の電話番号一覧メモ」をくれた。最初、僕はビート・ブリスコに習おうと思ひ、彼に電話をかけた。「ギター教ではしんてんですが？」「どうしてギターをやりたくないんか？」「僕は、ギターが好きだから……」。嫌かったの（笑）。その次に書いてあったセル・サルヴァドールの電話番号にかけた。彼はとても優しく対応してくれた。なのでセルに習うようになったのさ。後日、その語をビートに伝えたら、大笑いだったね（笑）。

— 当時、私はジャズをあまり知らなかった。ロックに夢中だったから、ロッキング・バンドでフエンダー・ストラトキャスターを弾いていたんだよ。ドラムス、ベース、ギター、オルガン、フルートという変わった編成で、ダーズやジミ・ヘンドリックスの曲をやった。オリジナル曲も多かった。ジミが僕の曲も好きなギタリストだった。師が「ファルモア・アーティスト」に勧めていたから、入り浸っていたね。

— だからジミが「ファルモア」に出るときは、いつも通った。彼のライブは120回くらい見たと思う。69年の大晦日の、バンド・オブ・グッド・バイーズ（ジミ、パティ・マイルズ、ベリール・コックスのバンド）のライブは全部見ていたよ。ジョニス・ジョプリンとビッグ・ブラザー・アンド・ザ・ホールズ・オブ・ザ・ホーリー・メンが前衛で、ジミ・ヘンドリックス・エクスプレス

がメインの公演も見た。ジョニスがぜんぜん知られていなかった頃のことだ。

— セルの話に戻るけど、彼と出会って僕の視野は本当に広がった。今週はスケール（音階）、次の週はコード（和音）、その次はヴァイブラフォンの本で勉強したり、タウリネットやヴァイオリンの教師本を使ったり、ボサノヴァをやったり……毎週レッスンの内容が変わる。ものすごく貴重な経験ができてラッキーだったよ。

どうしてギタリストは両一約なんだ？

— ジョシュアさんも演奏の他に、ジャズ・ギター講師としても多忙ですね。ジョシュア 日本、アメリカ、ヨーロッパに生徒がいる。だけど僕はもっと演奏したいんだ。僕は、すべての基本は「声」「歌」だと思う。声や歌で表現できるフレーズは、楽器でも必ず表現できるはずなんだ。だから僕が生徒にインプロヴィゼーション（即興演奏）を教えるときは、まず歌わせる。声はひとりひとり違う。電話がかかってくるたら、その声を聞いてたっ1秒でそれが誰か分かることもあるだろう。10年開いてない友人であっても、声をちょっと聞けばその声を出せるだろう？ みんな違った声。じゃあ何方、タイムズを持っている。それなのに、なぜ殆どのギタリストは同じ音を出すんだ？ 似たようなサウンドになるんだ。

— 会話のようなコミュニケーションが、音楽でできないわけがないと思うよ。偉大なミュージシャンは皆、自分のサウンドでコミュニケーションをとっている。チャーリー・パーカー、キーン・アムストロング、レスター・ヤング、みんなそう